

ご挨拶



量子イノベーションイニシアティブ協議会

会長 佐藤康博

(みずほフィナンシャルグループ特別顧問)

本協議会は、量子コンピューターの社会実装を世界に先駆けて実現することを目指して、産学官の情報交換と協力を密にして、量子技術の研究開発を加速します。本協議会にご参加されている企業の分野は、金融、化学、電気、情報、エネルギーなど多岐にわたっています。これらの分野を越えた交流と協業により活動の輪を広げていくことが、人材育成や技術力に根ざした成長を、産業界のみならず広く社会にもたらすものと確信しております。

本協議会会長として、協議会メンバーの挑戦的取り組みのために尽力し、その活動を支え、産業界そして官、学の世界に、本協議会への参加といっそうの支援を呼びかけて参りたいと思います。

本協議会及び量子コンピューターの社会実装にご興味のある方は本協議会事務局まで是非ご一報いただけましたら幸いです。

QIIの会員区分

正会員 共同研究等

- IBM Quantumへのアクセス権保証
- 大学教員等による共同研究
(本学教員のアクセス権有)
- 幹事会への参加
- IBM Quantum Network Memberに登録
※協賛事業の特典有

準会員

- 準会員の資格は3種類あり、グレードアップも可能です。

協賛事業

特典

- 1 総会への参加
- 2 セミナー・シンポジウム等の聴講
- 3 学術指導、共同研究に向けた助言・ガイダンス
- 4 広報活動
QIIのホームページ掲載。
QII協議会の活動に賛同していることをPRすることができます。

コンサル対応

特典

- 1 東京大学、慶應義塾大学にてIBM Quantum利用の見学が可能
- 2 大学教員等によるコンサル
※協賛事業の特典有

Grade Up

共同研究 (アクセス権無)

特典

- 東京大学、慶應義塾大学の大学教員等によるIBM Quantumを利用した共同研究の実施(アカウント・ID無)
※協賛事業の特典有

QIIへのご参加方法

- ❖ 東京大学と共同研究契約もしくは協賛申込となります(QII協定書締結)
- ❖ 共同研究費、協賛金等については別途相談



お問い合わせ

東京大学産学協創部協創課

電話：03-5841-4789

(電話対応時間：9:30~12:00、13:00~17:00 土日祝除く)

E-mail：kyoso-info.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

QII ウェブサイト



量子イノベーション イニシアティブ協議会

QII

ご参加のご案内



量子イノベーションイニシアティブ協議会

QIIのご紹介

QIIの目的

本協議会は、量子コンピューターの社会実装を世界に先駆けて実現するため、当該技術に関わる産学官の協力を促進し、相互の情報交換を密にすることをもって、我が国全体のレベルアップと実現の加速化を図る。

QIIの活動

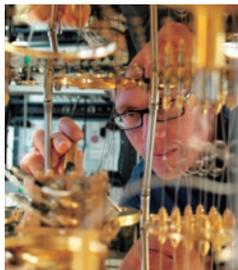
- (1) 量子計算ソフトウェア・アプリケーションに関する情報交換
- (2) 量子コンピューターに我が国のものづくり技術を適用し飛躍的性能向上を図るための量子ハードウェアに関する情報交換、及び次世代量子コンピューターの開発に結び付く基礎科学技術に関する情報交換

QII活動実績

- QIIセミナー ■ 2～3か月ごとに開催
■ 研究成果報告や量子にかかわる最新情報の提供を行い、意見交換・情報交換を行う。
- QIIジャーナルクラブ ■ 2～3か月ごとに開催
■ 発表論文等を筆者自らが解説し、会員同士でディスカッションをすることにより、量子研究等について理解を深める。
- QIIシンポジウム ■ 2～3年ごとに開催
■ 第1回を2022年11月21日(13:30～17:00)開催(一般公開)
■ 基調講演、パネルディスカッション、会員外からも量子分野の研究者が参加し、研究成果の発表や今後の量子技術の発展・産業化への貢献について議論を行った。
- QII総会・幹事会 ■ 総会(年1回以上)、幹事会(年2回以上)開催

量子コンピューターの時代

量子コンピューティング技術の進歩は従来の予測以上に加速しています。エラー低減技術の導入により、IBMの量子コンピューターが古典スーパーコンピューターを超える次のステップが実証されたと発表されました。2025年までに4,000量子ビット超に到達するためのロードマップも発表されており、日進月歩で進化するテクノロジーを多くの方が十分に活用できるよう技術革新を進めています。



ビジネスに劇的変革をもたらす量子技術

量子コンピューティング技術は既知の問題をより高速に解決するだけでなく、未知の問題を解決できる新しい可能性を秘めています。ロジスティクスの最適化、金融のリスク管理、次世代バッテリーや新素材の発見、再生可能エネルギーの効率向上等、活用分野はさらに広がっています。

参加企業・大学等(QII会員)(2023年7月現在 50音順)

- 東京大学 ■ 慶應義塾大学 ■ サントリーホールディングス ■ JSR
- ソニーグループ ■ DIC ■ 東京農工大学 ■ 東芝 ■ 凸版印刷
- トヨタ自動車 ■ 日本アイ・ビー・エム ■ 日立製作所
- みずほフィナンシャルグループ ■ 三井住友信託銀行 ■ 三菱ケミカル
- 三菱UFJフィナンシャル・グループ ■ 横河電機 ■ 理化学研究所

※「IBM Quantum System One」をかわさき新産業創造センター(KBIC)に設置

表紙画像他 / Credit: IBM Research

ご挨拶



東京大学
総長 藤井輝夫

量子コンピューターを含む量子技術を活用して、経済発展と社会的課題の解決を両立するSociety5.0の実現を目指すためには、多様なセクター間の相互の連携をより一層進めることが重要です。

本協議会は、産業界とアカデミアが情報共有を密に行いながら、量子技術研究そのものにとどまらず、具体的な社会実装を推進し、我が国の量子技術応用の高度化を図ることを目的としています。同時に、この技術がもたらしうる未来社会へのビジョンを参加企業や大学が、共に描いていくことを目指します。

また、変化の早い量子技術分野において世界から取り残されないためには、量子コンピューターに関わる要素・システムの開発だけでなく、次世代人材の育成が不可欠です。本学では学部段階からハイレベルな量子教育を導入しておりますが、本協議会において産業界の皆様と連携しながら次世代人材を育成していくことが、世界に先駆けた量子コンピューター技術の社会実装促進に繋がるものと確信しております。